

祈り只管に

おん 神の御めぐみ、
おぼしめ 疑い思召すべからず候

—西行・定家卿に贈る文—

神は広大無遍の御恵みを私共に垂れさせられている。神の御心を疑わない態度、ここに信仰に徹した姿を見出すことが出来る。どんなことがあっても、神は見通しであり、正義の士には必ず神のお恵みがある。決して疑ってはならないと西行が藤原定家に贈った書翰の一節である。親鸞上人も教行信証の順序で、教えを受け、実行してみて、それが間違でない以上は信じて実行する以外にない、そのとき、その信仰は正しいものであったと実証される、としたものである。

西行はもと佐藤義清といった。藤原秀郷の孫に当る。妻子を捨てて出家し、西行と名乗る。和歌に長じた。建久元年(1190)京都に歿した。享年73。藤原定家は俊成の子、和歌の名手として名あり、新古今和歌集の撰者である。仁治2年(1241)に薨じた。享年80。世に京極中納言と称せらる。小倉山に草堂を設け、そこで小倉山百人一首を選んだ。その日記に明月記がある。岡田米夫『神道百言』より



北相模総守護社

亀ヶ池・八幡宮

https://kamegaike.jp/

神奈川県神社庁相模原支部 神宮大麻頒布式齋行



10月30日、当八幡宮に相模原市内の宮司・神職が集まり神宮大麻頒布式を齋行いたしました。神事は、神宮大麻が相模原市内の各神社に頒布され、その後広く氏子崇敬者各ご家庭に遍く行き届き、ご加護を得られまして氏子地域隆昌、家内安全を祈念する意義のもと、毎年齋行されています。

当八幡宮根岸信行宮司による祝詞奏上にて新年に向けて神宮大麻、また神宮暦の頒布が始まる旨を大神様にお伝えいたしました。

その後、神前からお下げした神宮大麻は当八幡宮禰宜・相模原支部根岸浩行支部長に代表して手渡されました。

江戸時代より庶民に広がったと言われ「七五三詣」は男女祝児三歳を髪置、男児五歳を袴着、また女兒七歳を帯解とし、それぞれお子様の成長の節目の人生儀礼として、十一月十五日を中心に神社へお参りをします。昨年は十一月中も大変暖かく、また天候に恵まれた日が多く、当八幡宮では、晴れ着を着た大勢の可愛らしい祝児等で社頭賑わいました。御社殿内や待合室内などは、密集密接を回避するためにお入りいただけの方

七五三詣 お子様の 健やかな成長を



人数に上限を設定させていただきました。皆様のご協力のもと、七五三無事成長祈願を十月、十一月と恙無く、齋行することができました。お子様の健やかな成長をご祈念申し上げます。



令和三年諸行事ご案内

新型コロナウイルスの影響を考慮し、感染拡大防止のために様々な対策を施した新しい様式にて祭事等の行事を行って参りますので、この記事にてお知らせいたします。また現在では未定の部分も多々あり今後状況次第で変更または中止となることもございますので、ご了承ください。

節分祭 …… 二月二日(火)



例年立春の前日、節分の日に神前にてご祈禱の後、神楽殿に移動して豆まき神事を行っておりますが、本年はコロナ禍のため、神楽殿舞台からの豆まきを実施しないことといたします。神事ご参加の皆様には疫病退散神札や福物授与を行う予定です。年男年女の皆様、また福を授かりたい皆様、お申し込みをお待ちしております。

第十回一心泣き相撲「亀ヶ池場所」 …… 四月十八日(日)

今までは五月開催が多かった泣き相撲ですが、今年度は四月開幕になっております。第十回が中止となっただけに多くの方のご参加をいただいております。

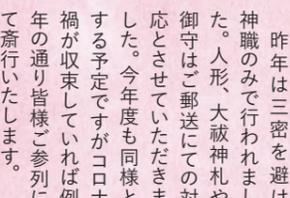


第七回 稚児行列 …… 六月二十七日(日)



稚児行列は穢れの無い神霊の宿りやすい幼子に装束と化粧を施し、神様の力を頂いてお子様が幸せになるよう願う行事です。昨年はソーシャルディスタンスの中で無事に行われました。今年度も同様に行う予定です。

夏越大祓式茅の輪くぐり神事 …… 六月二十七日(日)



昨年は三密を避け神職のみで行われました。人形、大祓神札や御守は郵送にての対応とさせていただきます。今年度も同様とする予定ですがコロナ禍が収束していれば例年の通り皆様ご参列にて齋行いたします。

例大祭 …… 九月十七日(土)

神事は厳粛に行いますが、氏子崇敬者の方にご参列いただけるか、また神賑行事の開催については未定です。

令和3年 厄年表

男性			女性		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成10年生 24才	平成9年生 25才	平成8年生 26才	平成16年生 18才	平成15年生 19才	平成14年生 20才
昭和56年生 41才	昭和55年生 42才	昭和54年生 43才	平成2年生 32才	平成元年生 33才	昭和63年生 34才
昭和37年生 60才	昭和36年生 61才	昭和35年生 62才	昭和61年生 36才	昭和60年生 37才	昭和59年生 38才
			昭和37年生 60才	昭和36年生 61才	昭和35年生 62才

亀ヶ池八幡宮 第三駐車場完成修祓式

年々参拝者が増加するなかで駐車場不足が最大の懸案でありましたが、昨年10月末に鳥居前方30メートル左側、当八幡宮南駐車場の向かいの所に第三駐車場が完成し修祓式が執り行われました。向後、ご参拝方々の利便性が一層向上するものと思えます。



新下水舎が令和元年十月に竣工いたしました。そして、もとの下水舎の東屋は移築しましたがこの度、令和二年九月、東屋の中心に石碑を建立し改めて「神宮遙拝所」として竣工したことを神様にお伝えする竣工奉告祭が斎行されました。当八幡宮参拝の折にはこちらから伊勢の神宮へもお参りください。

神宮遙拝所竣工

年頭のご挨拶

宮司 根岸信行



令和三年の新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げますと、共に聖寿の万歳を壽ぎ、

皇室の弥栄と氏子崇敬者皆様の平安とご多幸を心よりお祈り申し上げます。希望に満ちた昨年新春から打って変わり、新型コロナウイルスの世界的蔓延により、国民待望の東京五輪の延期やあら

ゆる行事が縮小・中止になるなど、日本人の生活様式が一変してしまいました。その後、国民一人ひとりにはコロナ鎮静に向けて種々の対策を講じていますが、その猛威は未だ終熄が見えず、予測困難な未来に不安を抱えています。

当八幡宮においても、例年大勢の参加がある泣き相撲や相模原市三大祭の一つである上溝の夏祭り(天王祭)が中止となり、例年であれば、参列者を招いて盛大に行う九月の例大祭も崇敬者の参列を



令和二年 例大祭斎行

夏の暑さも和らいできた9月19日午前11時、亀ヶ池八幡宮令和二年例大祭が斎行されました。本年はコロナ禍のため、氏子総代・世話人のみの参列にて執り行いました。

祭典に先立ち、境内の祓所にて宮司以下、祭員・氏子総代・世話人はお祓いを受けたのち、御社殿へ参進します。

心配されていた天候も、曇天ではありましたが雨もなく祭典は滞りなく行なうことが出来ました。

神前でのご宮司による祝詞奏上では、この一年間のご加護に対する感謝と皇室の弥栄と氏子地域安寧、並びに隆昌のご祈願と共に、新型コロナウイルスの収束・疫病除が祈念されました。

その後、御社殿内に於て長年世話人をお勤めされた方への感謝状贈呈式等が行われ、式は恙無く終了いたしました。直会や番田神代神楽奉納などの神賑行事はやむ無く中止となりました。

ご遠慮いただき、神職総代世話人のみで斎行し神賑行事は見合せざるを得ない状況となりました。古来より日本人は、幾度となく自然災害や疫病に見舞われ、その都度神仏に祈り捧げそのお力・御神威をいただき困難を乗り越えてきました。その昔、ヨーロッパでペストの流行が時代を変えたように、此度のコロナ禍が終熄した時には新しい時代が始まるのでしょうか。神職は祭儀の厳修が第一の務めであり「まつり」とは命の再生への真摯な「祈り」であります。引き続きご神徳の一層の発揚を願ひ日々ご神前で疫病消除を祈願していく所存でございます。

亀ヶ池八幡宮 八坂祭斎行

去る七月二十七日、亀ヶ池八幡宮本殿において、氏子総代・世話人参列のもと、八坂祭が斎行されました。このお祭りは毎年行われており、上溝の夏の風物詩ともなっている、お神輿大小二十基余りが渡御する上溝夏祭り(天王祭)の、本祭典とも言える行事です。

亀ヶ池八幡宮御社殿の扉の奥には三つの扉があり、中央には亀ヶ池八幡大神様が鎮座されていて、向かって左の扉には八坂大神様が鎮座されています。この神様が、お神輿に奉遷され町内を練り歩くのが上溝夏祭りです。昨年は東京オリンピック開催予定年ということに加え、新型コロナウイルス感染症の影響があり、お神輿が町内を渡御する神幸祭は中止となりましたが、御神前で祭典は厳粛に斎行されました。

八坂祭はもともと疫病退散のお祭です。今年も町内にお神輿を担ぐ威勢のよい掛け声が響き渡りますように。



兼務神社めぐり

19 日枝大神

(相模原市南区磯部五〇八)

四ツ谷日枝大神の創建年代等は不詳ながら、延文元年(一三五六)以前より下磯部四ツ谷地区の鎮守として大山咋神(おおよま)といのかみ)という山の神様をお祀りしております。その総本山は滋賀県の日吉大社です。

もともと大山咋神様は滋賀県の比叡山全体の神様ですが、後に比叡山に天台宗の総本山である延暦寺が建立されるとその守護神として祀られ、山王大権現(さんのだいごんげん)と呼ばれるようにもなりました。その為、大山咋神様の別名を「山王(さん)のう)様」とか「ひえ大神」と呼んだりしていたそうです。地元四ツ谷の人々は昔から日枝大神ではなく山王様と呼んでおります。

「おおよま)く」という名前は「大きな山の杭」山全体を支配する」という意味と「山々の樹木や田畑の成長を促す」という意味があります。どちらの意味にしても、山の壮大なパワーをその御神徳とされておりま



また、大山咋神様は稲の稔りの神様と水の神様の子供ですので、五穀豊穡の御神徳

其の十

当八幡宮の兼務神社を順次ご紹介いたします。

も併せ持っている神様であります。四ツ谷地区周辺には田畑が広がっておりますので、農作物の稔りは重要なものであります。

文久元年(一八六一)八月二十一日に社殿を再建し、慶応元年(一八六五)年九月、社殿の改築を行い、更に明治三十年九月には社殿の修理、大正十五年十月十二日、社殿を改築し屋根の草葺を亜鉛板葺としました。昭和五十三年四月二十日幡、幡棹を新調、同年五月社殿屋根の葺き替えを行ってまい

す。幡棹は祭礼の前に氏子の皆様と力を合わせて棹立てをしておりましたが、高齢化と危険性もあることから、平成二十四年六月、安全簡易に掲げられるスチールポールになり、二十五年度四月に幡も新調しました。【年中行事】一月：元旦式、四月：例大祭(齋藤満総代長寄稿)

20 三島神社

(相模原市南区当麻七二四)

当麻・芹沢地区の、木々に囲まれ湧水の流れる静かな土地に三島神社は鎮座している。境内の由緒書には次のように記されている。

『三嶋家二十八代の主河野四郎通信は源義經の幕下にして平家討伐の功により伊豫国七郡の守護職に任ぜられ併せて阿洲久米郡をも併職せられたが其の後奥洲征伐の時勳功等により梶原景時など意見相容れずして奥洲平泉に配流された(河野通信は時宗開祖智真坊隨縁(後の一遍上人)の祖父にあたる)』

此の時通信の一族河野太郎冠者なる通信の一子を擁して當地に隠れ住む故に一遍上人は縁り深き當地に巡錫せられ時宗本山當



(清水敏守総代長寄稿) 直会の席では、新旧の神社年番による三々九度の盃を以て引継ぎが行われる。歴史の深い三島神社と奇習「ナマスマチ」は、これから先も永く伝承されていくことである。

麻山無量光寺の東南清泉湧出せる清浄なる地に一社を建て三嶋大権現を祀る現在の地である毎年例祭には無量光寺住職祭典に列し讀經せられる。境内脇には、稲荷神社・不動様・秋葉山石塔・地神の石塔が並ぶ。三島神社の祠は芹沢自治会館の建物内に祀られている。宝永三年(一七〇六)に建造され、当時のままに現存するその本殿は見世棚造の特徴を持ち、相模原では二例のみとされる希少なものである。毎年例大祭では社殿が開扉され、「ミヤザシキ(祭祀及び直会)」と「ハチアライ(後片付け)が二日間に亘り執り行われる。祭は別名「ナマスマチ」(「禰祭」の意)とも呼ばれ、食に関する民俗行事として受け継がれている。「ナマス」は大根を薄切千切りとし酢と砂糖で味付けしたもので、「ナマスのコ」と呼ばれる鮪のブツ切りを二切れ乗せて盛付けられる。砂糖と醤油のみで味付けされた鯖の煮付・大根と里芋の煮付が併せて添えられる。箸として、手で触れる部分に袴を残した篠竹が使われる。



直会の席では、新旧の神社年番による三々九度の盃を以て引継ぎが行われる。歴史の深い三島神社と奇習「ナマスマチ」は、これから先も永く伝承されていくことである。